

令和 4 年 5 月 31 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19H01387

研究課題名(和文)「野の芸術」論 ヴァナキュラー概念を用いた民俗学的アート研究の視座の構築

研究課題名(英文) Basic Study on Vernacular Art in Japan

研究代表者

菅 豊 (Suga, Yutaka)

東京大学・東洋文化研究所・教授

研究者番号：90235846

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,200,000円

研究成果の概要(和文)：ヴァナキュラー・アートとは、芸術に関する特別な教育などを受けず、かつ自分自身を芸術家とすら認識しないような「芸術家」が作成する、美術作品や野外の建造物のジャンルのことである。本研究では、近年、海外の民俗学やアート研究において大きな存在感を示しているヴァナキュラー・アート(「野の芸術」)に関する研究手法を先駆的に日本に導入し、その分野における研究手法と実践の日本での展開可能性を探る取り組みを行った。その結果、ヴァナキュラー・アートは、従来の日本における民俗学研究のあり方を変える大きな原動力となりうることを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、これまで日本で着目されておらず、その重要性が十分に理解されてこなかったヴァナキュラー・アートという新しい民俗研究のジャンル、および研究視角を先駆的に日本の民俗学に導入し、その方法や研究例の具体像を明らかにし、その応用可能性を明らかにした点で学術的な意義がある。また、普通の生活世界で生きる非専門的な多様な人びと＝「野の芸術家」たちが展開するアートであるヴァナキュラー・アートの多元的な価値を尊重し、それに内在する人びとの思い、生き様、そして創造性に主たる眼目を置いて、アート論を狭いアート・ワールドから広く社会に開放した点で社会的意義がある。

研究成果の概要(英文)：Vernacular art is a genre of art and outdoor constructions made by untrained "artists" who do not recognize themselves as artists. In this study, we took the pioneering step of introducing the research approach known as vernacular art, whose presence in the study of folklore and art overseas has grown substantially in recent years, into Japan and explored the possibility of developing research methods and practices associated with this approach in Japan. The conclusion reached is that vernacular art has the potential to become a powerful driving force in changing how Folklore is studied in Japan.

研究分野：民俗学、文化人類学

キーワード：ヴァナキュラー・アート 限界芸術 野の芸術 アウトサイダーアート vernacular art

## 1. 研究開始当初の背景

本研究の開始当初まで、日本の民俗学では芸術=アートの全体的な研究に十分に取り組んでこなかった。日本の民俗学の草創期である1928年には、民俗芸術の会が設立され雑誌『民俗芸術』が発刊されたが、それは民俗芸能偏重で芸術一般を取り扱うことはなかった。しかし、その会に参画した柳田国男は芸術に関心を示し、芸術が「面白い研究課題」であり、その研究が「世界のフオクロア」に対して貢献できると強調した。そして生け花や庭園、化粧、芝居演劇、絵画などを例に、「素人」や「専門家に非ざる百姓」「小学校に入ったばかりの子供」といった「普通人」や「無名の常民」の芸術活動を研究することの意義を訴えた(柳田1934:147-152)。現代のアート論においても先駆的である柳田のこの主張は、その後、鶴見俊輔の「限界芸術論」に引き継がれたものの、残念なことに現在の民俗学では忘却されてしまった。また民俗学は、それと同時代に生じた柳宗悦らの民藝運動とも直接接触することはなかった。結果、日本の民俗学は伝統的な民俗芸能や口承文芸には関心をもったものの、芸術を「便宜的・表面的な分類ラベル程度のものでしかなく、内実をもった概念にまで高める必要のないもの」(小松1999:6)として軽視し続けてきた。その日本民俗学の状況は本研究開始当初まで変わっていない。

しかし、アルフレッド・ジェルやティム・インゴルドなどの研究をもち出すまでもなく、近年、人類学的アート研究が活性化しており、また社会学など民俗学の隣接科学でもアートが重要課題となっている。そして海外の民俗学に目を転じれば、古くより美術や工芸に関して Folk Art (英米)や「民間芸術」(中国)という明確なジャンルが定められ、積極的に考究されてきた。さらに翻って日本のアート界を眺望すれば、地域の芸術祭が隆盛するなど、現代美術の重心が前衛的なコンセプチュアル・アートから、「風土」「伝統」といった土着的な民俗文化を求めるものへ移行する「民俗学的転回(Folkloric Turn)」(福住2017:29)を経験しており、アートにとって民俗学的世界は見過ごせない重要課題となってきている。

【参考文献】柳田国男1934『民間伝承論』共立社、小松和彦他編1999『芸術と娯楽の民俗』雄山閣、福住廉2017「民俗学的転回」『美術手帖』2017年12月号(1062号)

## 2. 研究の目的

本研究は、これまでの日本の民俗学が十分に取り組んでこなかったアートという研究ジャンルを日本の民俗学のなかに画定し、それに対応する研究視座を構築すること、さらに、ヴァナキュラー概念を用いた民俗学的アート論によって、従来のアート研究では重きが置かれてこなかった普通の人びとのありきたりな日常的アート創作活動、すなわち「野の芸術」の様相と意義を問い直すことを目的としている。

## 3. 研究の方法

研究メンバーは、まず個々のフィールドで生起しているヴァナキュラー・アートをめぐる実践の展開と深化に不可欠な重要課題を、フィールドワーク・文献調査等により精査するとともに、個々のアートの具体像、特質、社会的意義、そしてそのアート・ワールドの構造を民族誌的に明らかにし、そのアートのなかに内在するヴァナキュラー性(vernacularity)を検討した。そしてヴァナキュラー・アートに関する海外文献をもとに理論研究も執り行った。さらに、定期的に国内で開催する研究会(計10回開催)に、その個別事例研究の成果をもちより、比較して異同を対照するディスカッションを継続することにより、ヴァナキュラー・アートの全体的特質や、ヴァナキュラー概念の理論的な可能性と限界について明らかにした。その研究会は「野の芸術」論研究会というかたちで基本的に公開とし、現代民俗学会等の学術団体と共催することにより社会への研究成果の還元を努めた。また、国内外の学会等で発表、意見交換を行った。

## 4. 研究成果

日本の民俗学と世界各国の民俗学とでは、研究ジャンルが非対称である。芸術=アートというジャンルは世界の民俗学では積極的に取り組まれているのに対し、日本の民俗学では十分に取られてこなかった。日本の民俗学において、そのアートという重要ジャンルを研究の射程に収めることを目指して立案された本研究は、これまでの日本民俗学に欠落してきた重要ジャンルの画定と、それへアプローチするための重要な視角を新しく提示した点で大きな成果を上げたといえる。

本研究では、その民俗学的アート論を起ち上げる際に、「ヴァナキュラー」という重要概念を採用した。ヴァナキュラーは、元来、土地固有の土着性や、さらに地方語、話し言葉、日常語を意味する言葉として使用されていたが、今日の文化研究において重要な文化概念として用いられ、米国の民俗学でもキーコンセプトとなっていった。その語には土着や周縁、非権力、異端、邪道、粗野、アンオフィシャル、アマチュア、ディレクタント、在野、非エリート、俗、非市場、独学、手仕事といった、実に多様な含意を読み取ることができる。このヴァナキュラーという語で形容されるアートのジャンル、すなわちヴァナキュラー・アートは、芸術の専門教育を受けておらず、そして自分のことを「芸術家」だと認識していない「芸術家」たちによって制作される

アートであり、独学芸術 (Self-taught Art) や、障害をもつ人びとが一般的に行方主体とされるアール・ブリュット (Art Brut)、その英訳であるアウトサイダー・アート (Outsider Art) さらに機能性に欠ける奇異な構造物を数十年かけて、こつこつと無目的に創り上げる幻視風景 (Visionary Environment) などのアート・ジャンルと多くの部分で重なり合う。

ただし、ヴァナキュラー・アートの場合、天賦の才に恵まれ敬意を集める芸術家や、反対に「変人」扱いされる人びと、そしてアフリカン・アメリカンや障害者といったマイノリティのように、社会的に「しるしづけられた(有徴の)存在」による創作だけでなく、市井のどこにでもいる、表舞台で脚光を浴びない普通の人びとの、ありきたりな日常生活における創作という民俗的対象を含む点で、通常のアート論にはない特徴をもつ。

本研究は、研究メンバーが関わってきた人びとの生活と不可分である創作、つまり衣食住と同じように日常生活に埋め込まれ、淡々と行われてきたヴァナキュラー・アートの様相を明らかにすることで、民俗学研究の新領域を開拓した。それは、これまで使用されてきた伝統と不可分である Folk Art や民間芸術、民俗芸術といった枠組みとは異なる、伝統に囚われない日常生活における「いま」のアートの創作活動を研究の視野に収めた点で、国内外の民俗学にインパクトを与えるものである。その研究成果を、論集『ヴァナキュラー・アートの民俗学 「野の芸術家」たちの創作世界』(仮題、東京大学出版会、2023年刊行予定)として刊行すべく、現在、鋭意作業中であり、その刊行によって今後、民俗学のアート論が活性化するのみならず、一般的なアート研究が新しい視座を獲得することが期待される。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計48件（うち査読付論文 21件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 19件）

1. 著者名 菅豊	4. 巻 229
2. 論文標題 コメント 近世・近代移行期の歴史のもつれあい	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人民の歴史学	6. 最初と最後の頁 25-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菅豊	4. 巻 39
2. 論文標題 中国における「遺産」政策と現実との相克 ユネスコから「伝統の担い手」まで	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 実践民俗学研究（韓国）	6. 最初と最後の頁 9-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菅豊	4. 巻 2021年第1期（第5輯）
2. 論文標題 非物質文化遺産的幻影	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 遺産（中国）	6. 最初と最後の頁 153-177
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤幸治	4. 巻 858
2. 論文標題 “常民”を発見した民俗学	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 48-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川田 牧人	4. 巻 50
2. 論文標題 書評：宮脇聡史著『フィリピン・カトリック教会の政治関与』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東南アジア 歴史と文化	6. 最初と最後の頁 140-144
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川田 牧人	4. 巻 59巻2号
2. 論文標題 書評：吉沢ゆりあ著『民族衣装を着た聖母』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東南アジア研究	6. 最初と最後の頁 337-340
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 依木 悟	4. 巻 70
2. 論文標題 書評：武田俊輔著『コモンズとしての都市祭礼：長浜曳山祭の都市社会学』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 民俗芸能研究	6. 最初と最後の頁 97-109
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤 洋一、衣川 太一	4. 巻 5
2. 論文標題 写真撮影地点同定方法一般化の試み：占領期のパーソナル写真を事例として	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 デジタルアーカイブ学会誌	6. 最初と最後の頁 s9-s12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24506/jsda.5.s1_s9	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 西村 明	4. 巻 95
2. 論文標題 近代日本におけるコレラの流行と宗教	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 宗教研究	6. 最初と最後の頁 53-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20716/rsjars.95.2_53	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 西村明	4. 巻 40
2. 論文標題 疫病で検出される信仰世界 : 近代日本のコレラ流行を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 宗教学論集	6. 最初と最後の頁 53-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西村明	4. 巻 14
2. 論文標題 「戦争体験」と慰霊に対する宗教学的アプローチの再検討	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 理論と動態	6. 最初と最後の頁 82-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塚本磨充	4. 巻 4
2. 論文標題 貫休「羅漢図」の時空 - 禅月大師「応夢羅漢図」と伝播する聖地 -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 空間史学叢書	6. 最初と最後の頁 149-191
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塚本鷹充	4. 巻 44409
2. 論文標題 千年宝蔵、多元歴史 東京国立博物館の中国書画収蔵和其故事	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 書與画	6. 最初と最後の頁 12-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 菅豊	4. 巻 2020年第3期(総第151期)
2. 論文標題 民俗学芸術論題的転向—従民間芸術到支 (手偏に掌)人之“生”的芸術(vernacular芸術)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 民俗研究	6. 最初と最後の頁 38-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.13370/j.cnki.fs.2020.03.004	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yutaka Suga	4. 巻 2
2. 論文標題 The Challenge of Public History in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Public History Newsletter	6. 最初と最後の頁 14-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 菅豊	4. 巻 26(2)
2. 論文標題 地方創生と「新しい野の学問」としての地域学」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 学術の動向	6. 最初と最後の頁 26-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 加藤幸治	4. 巻 161号
2. 論文標題 「地域教材」と民具	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 民具研究	6. 最初と最後の頁 29-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤幸治	4. 巻 37号
2. 論文標題 学問の同時代性への視点 「内から見た日本農村研究」へのコメント	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 神奈川大学日本常民文化叢書 歴史と民俗	6. 最初と最後の頁 115-128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Koji Kato	4. 巻 第10号
2. 論文標題 Catastrophic Disaster Causing Separation of Culture and Loss of History : Museum activities by university students for “Build Back Better” of local culture	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人類学研究所 研究論集	6. 最初と最後の頁 50-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 川田牧人	4. 巻 36輯
2. 論文標題 ワンが一番の笑い 奄美の余興笑芸に関する予備的考察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本常民文化紀要	6. 最初と最後の頁 1-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 小長谷英代	4. 巻 79(1)
2. 論文標題 Heritage Production in National and Global Cultural Policies: Folkloristics, Politics, and Cultural Economy in Ryukyu/Okinawan Performance	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Asian Ethnology	6. 最初と最後の頁 45-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 依木悟	4. 巻 36
2. 論文標題 一九七〇年の「お祭り」：日本万国博覧会における祭りの表象	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本常民文化紀要	6. 最初と最後の頁 93-139
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1163/22118349-00901003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tsukahara Shinji	4. 巻 9
2. 論文標題 Displaying Mythological Characters	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Religion in Japan	6. 最初と最後の頁 10-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1163/22118349-00901003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 塚原伸治	4. 巻 46
2. 論文標題 芸能としての祭礼 「佐原の大祭」における美の追求	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 社会人類学年報	6. 最初と最後の頁 31-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤洋一	4. 巻 4(2)
2. 論文標題 写真の里帰り : 米国所在の戦後日本の写真を地域へ還元するプロセスとその課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 デジタルアーカイブ学会誌	6. 最初と最後の頁 120-123
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24506/jsda.4.2_120	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐藤 洋一	4. 巻 4
2. 論文標題 インディペンデントで自発的な調査体: 鳥類学者オリヴァー・L・オースティンコレクションの写真調査	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 デジタルアーカイブ学会誌	6. 最初と最後の頁 s5-s8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24506/jsda.4.s1_s5	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐藤洋一・衣川太一	4. 巻 19
2. 論文標題 占領期写真の複合的活用に関する試み : 一九四五年東京・銀座のケーススタディ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 昭和のくらし研究	6. 最初と最後の頁 7-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤洋一	4. 巻 347
2. 論文標題 米国における占領期日本の写真資料をどう捉えるのか : 現状・全体像・日本への還元における課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 カレントアウェアネス	6. 最初と最後の頁 10-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 西村明	4. 巻 16
2. 論文標題 架橋としての視覚物 - 戦地訪問映像を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本オーラル・ヒストリー研究	6. 最初と最後の頁 27-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西村明	4. 巻 4
2. 論文標題 記憶とたましい - 戦争死者の遺骨をめぐる対応から考える	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ひらく	6. 最初と最後の頁 64-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒崎浩行・佐藤壮広・君島彩子・西村明(司会)	4. 巻 2021
2. 論文標題 テーマセッション「ウィズ・コロナ、ポスト・コロナの信仰のカタチ」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現代宗教2021	6. 最初と最後の頁 33-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 鬼頭宏・西村明(聞き手)	4. 巻 2021
2. 論文標題 文明史的視点から見るコロナ問題 歴史人口学者鬼頭宏氏に伺う	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現代宗教2021	6. 最初と最後の頁 55-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 塚本鷹充	4. 巻 15
2. 論文標題 日本の風景を画いた清朝画家 沈桂「亀鶴（土偏に幼）詩画冊」（野崎家塩業歴史館）と島津重豪	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中国文史論叢	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塚本鷹充	4. 巻 2020年 第4号
2. 論文標題 日本看中国的誤解譜系	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 南京芸術学院学报：美術與設計	6. 最初と最後の頁 56-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 菅豊	4. 巻 2019年第3期
2. 論文標題 文化遺産的適応性管理 我們該如何应对文化遺產管理（CHM）的不確定性？	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中国芸術時空	6. 最初と最後の頁 51-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 陸微微、菅豊	4. 巻 2019年第6期
2. 論文標題 “中国錦鯉”是如何誕生的？ 現實與虛擬空間中的“第三種文化”	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 復印報刊資料・文化研究	6. 最初と最後の頁 69-79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.13370/j.cnki.fs.2019.02.013	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 菅豊	4. 巻 299
2. 論文標題 共約不可能性 (incommensurability) に民俗学はいかに対応すべきか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本民俗学	6. 最初と最後の頁 82-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菅豊	4. 巻 34
2. 論文標題 公共民俗学の可能性と課題 学問の公共性が問われる時代に民俗学者はどう対応するのか? (韓国語)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 実践民俗学研究	6. 最初と最後の頁 9-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塚本鷹充	4. 巻 36
2. 論文標題 市河米庵と董其昌 江戸時代後期における明清文人文化と正統派受容	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 美術史論叢	6. 最初と最後の頁 1-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hideyo Konagaya	4. 巻 79:1 (Winter 2020)
2. 論文標題 Art, Folk, and Performance in the Emerging Discourse on Japanese Modernity	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Western Folklore	6. 最初と最後の頁 59-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塚原伸治	4. 巻 67
2. 論文標題 関係のなかで民俗芸能をとらえ直す もの、偶然性、意図されなかった結末	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 民俗芸能研究	6. 最初と最後の頁 61-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 依木悟	4. 巻 299
2. 論文標題 民俗学とデジタル・ヒューマニティーズ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本民俗学	6. 最初と最後の頁 75-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 依木悟	4. 巻 67
2. 論文標題 趣旨説明 (平成三〇年度民俗芸能学会大会シンポジウム「民俗芸能研究の新しい視点に向けて」)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 民俗芸能研究	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 依木悟	4. 巻 300
2. 論文標題 芸能：民俗学的芸能研究を開く / 拓く	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本民俗学	6. 最初と最後の頁 110-122
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 依木悟	4. 巻 125
2. 論文標題 米国インディアナ大学における民俗学の研究と教育(4)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 民俗学研究所ニュース	6. 最初と最後の頁 3
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮内泰介	4. 巻 25
2. 論文標題 複数的資源管理の議論のしかたはどうあるべきか 北島義和著『農村リクリエーションとアクセス問題 不特定多数の他者と向き合う社会学』を読む	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 環境社会学研究	6. 最初と最後の頁 219-223
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 西村明	4. 巻 36
2. 論文標題 ローカルな信念世界への接近 宗像巖の水俣論とフィールドワーク	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東京大学宗教学年報	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.15083/00078530	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Akira Nishimura	4. 巻 66(2-3)
2. 論文標題 The Commemoration of the War Dead in Modern Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Numen	6. 最初と最後の頁 139-162
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1163/15685276-12341536	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計85件（うち招待講演 62件 / うち国際学会 24件）

1. 発表者名 菅豊
2. 発表標題 探討中日民俗学中“共有資源論”的可能性
3. 学会等名 山東大学主催国際シンポジウム「人文東亞研究工作坊第十期“共有資源：民俗學視野下的東亞社會」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 菅豊
2. 発表標題 「新しい野の学問」の可能性 学者と市民による学問の協働統治
3. 学会等名 東華大学外語学院主催講演会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 菅豊
2. 発表標題 今日守護文化，是為明日構築和平 讓非物質文化遺產成為制造融和而非分歧之器
3. 学会等名 山東大学儒学高等研究院主催「中華古典學術傳統創新」暑期学校（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 菅豊
2. 発表標題 中国における「遺産」政策と現実との相克 ユネスコから「伝統の担い手」まで
3. 学会等名 韓国実践民俗学会、国立民俗博物館主催国際シンポジウム「東アジアにおける文化遺産と日常のポリティクス」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年



1. 発表者名 菅豊
2. 発表標題 文理融合（協働）研究プロジェクトの困難さ
3. 学会等名 国立研究開発法人科学技術振興機構主催「俯瞰ワークショップ：文理融合研究のあり方とその推進方策」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 菅豊
2. 発表標題 民俗学の喜劇 “低微（humble）” な学問の可能性
3. 学会等名 東南大学外国語学院主催国際シンポジウム「21世紀の中日民俗学への展望」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 菅豊
2. 発表標題 UNESCO的無形文化遺産制度能保護文化多様性（口偏に馬）？ 全球化時代普遍価値與地方性価値的相克
3. 学会等名 浙江師範大学、浙江省民俗文化促進会、浙江師範大学乡村振兴研究院主催国際シンポジウム「2021年非遺傳承與現代生活（国際）學術検討会」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 菅豊
2. 発表標題 パブリック・フォークロアとはなにか？ その可能性と課題
3. 学会等名 関西大学主催研究集会「日本におけるパブリック・ヒューマニティーズ／公共人文学の現在地」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 加藤幸治
2. 発表標題 民俗誌の現在地：東日本大震災10年に何を書くのか
3. 学会等名 京都民俗学会第331回談話会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 加藤幸治
2. 発表標題 拡張する農民美術運動と農村の工芸
3. 学会等名 現代民俗学会第55回研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 加藤幸治
2. 発表標題 被災地でのパブリック・フォークロアの実践：震災10年の博物館活動とこれから
3. 学会等名 東北工業大学 開放型講座「地域未来学」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 加藤幸治
2. 発表標題 ヴァナキュラー（生活文化）を作品制作の糧に：民俗学と美術教育の接点をさぐる
3. 学会等名 武蔵野線沿線図工美術教育実践学習会 第13回オンライン研修会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 川田 牧人
2. 発表標題 東南アジアのイスラーム書にみる「天国と地獄」:コメント
3. 学会等名 東南アジア学会第103回研究大会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小長谷 英代
2. 発表標題 アート における ヴァナキュラー の視点ーグローバル化と「フォークライフ・フェスティバル」
3. 学会等名 現代民俗学会第58回研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 依木 悟
2. 発表標題 無形文化遺産では代替できなかったもの：遺産にならずに休止することを選んだ事例から考える
3. 学会等名 韓国実践民俗学会、国立民俗博物館主催国際シンポジウム「東アジアにおける文化遺産と日常のポリティクス」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 依木 悟
2. 発表標題 趣旨説明：民俗学のデジタル・ヒューマニティーズの展開
3. 学会等名 現代民俗学会第59回研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 依木悟
2. 発表標題 鹿島踊の諸相：神奈川県教育委員会「鹿島踊」記録保存調査事業の成果を中心に
3. 学会等名 相模民俗学会特別講演会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 塚原伸治
2. 発表標題 郷土の研究者はいつまで同郷人であることができるか アカデミック民俗学者にとっての地元について
3. 学会等名 第3回 EAA「民俗学×哲学」研究会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 西村明
2. 発表標題 政教分離フィルター濾過後の残留宗教性と芸術
3. 学会等名 美学会第72回学術大会シンポジウム「新・限界芸術論」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西村明
2. 発表標題 シリーズ『近代日本宗教史』（春秋社刊）について
3. 学会等名 東大人文熊野フォーラム in 新宮
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 塚本鷹充
2. 発表標題 世界のなかの関西中国書画コレクション そのグローバル・コンテキストとローカル・ネットワーク
3. 学会等名 関西中国書画コレクション研究会設立10周年記念国際シンポジウム「中国書画コレクションの時空」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 塚本鷹充
2. 発表標題 “古物”與“聖像”之間：狩野派模本所見中國佛教繪畫的記錄、鑑定、修復
3. 学会等名 第六屆「東亞文獻與文學中的佛教世界」學術研討會「東亞佛教藝術史」（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 塚本鷹充
2. 発表標題 佛影、岡岡、山水図 中国佛教的自然觀照和其在東亜の圖像表現
3. 学会等名 清華大学芸術博物館學術講座第114期（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 米野みちよ・平野裕子
2. 発表標題 EPA看護師候補者に対する学習支援
3. 学会等名 静岡県立大学大学院国際関係学研究科附属グローバル・スタディーズ研究センター（CEGLOS）「自著を語る」シリーズ（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Michiyo Yoneno-Reyes
2. 発表標題 Connectivity and/or Conviviality?: Musics of the Philippine, Indigenous Peoples on YouTube, ” Asia-Pacific Society for Ethnomusicology
3. 学会等名 Asia-Pacific Society for Ethnomusicology (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Michiyo Yoneno-Reyes
2. 発表標題 Japanese Language Training for EPA Nurses: A Review Essay
3. 学会等名 LMU Migration Lecture Series (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Michiyo Yoneno-Reyes
2. 発表標題 Filipino Community in Japan and their Music Activities 2022
3. 学会等名 東京工業大学リベラルアーツ研究教育院特別講義 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Michiyo Yoneno-Reyes
2. 発表標題 Singing Solo, Sharing Time: Singing Contest of Filipinos in Japan
3. 学会等名 国立民族学博物館 国際会議 Performing Arts and Conviviality (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山下香
2. 発表標題 ソーシャルキャピタル（社会関係資本）を活用した南部地域活性化 磨こう！地域資源の発見力 見える資源・見えない資源のみつけかた
3. 学会等名 豊中市とよなか都市創造研究所2021年度グループ研究会キックオフ講座 第3回研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山下香
2. 発表標題 「地域資源から始まるローカルプロジェクト」おかんアート活動を通して
3. 学会等名 大阪ガス株式会社 エネルギー・文化研究所 都市魅力研究室Talkin ' About
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 菅豊
2. 発表標題 民俗学をもっとひらこう
3. 学会等名 現代民俗学会第50回研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 菅豊
2. 発表標題 災禍のなかのパブリック・ヒストリー public history
3. 学会等名 成均館大学東アジア学院、延世大学国学研究院、京都大学人文科学研究所、東京大学東洋文化研究所主催 4研究所合同シンポジウム「アジアの災害/ Disaster in Asia」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 菅豊
2. 発表標題 パブリック・ヒストリーとは何か？
3. 学会等名 日本村落研究学会 関東地区研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 加藤幸治
2. 発表標題 復興キュレーション：ミュージアム思考からのまちづくり
3. 学会等名 復興大学主催、令和2年度県民講座 20講復興の生活構築学（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 加藤幸治
2. 発表標題 『フィールドとしての農村』という課題
3. 学会等名 現代民俗学会第50回研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 加藤幸治
2. 発表標題 課題としての「土」 もうひとつの「野の学問」の水脈
3. 学会等名 現代民俗学会主催第52回研究会（招待講演）
4. 発表年 2020年



1. 発表者名 加藤幸治
2. 発表標題 牡鹿半島の民俗誌 復興キュレーション
3. 学会等名 国立民族学博物館主催, みんなくゼミナール 国立民族学博物館特別展関連行事(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Konagaya Hideyo
2. 発表標題 Intangible Cultural Heritage in Asia: Traditions in Transition
3. 学会等名 1st Public Symposium of the Anthropological Institute, Nanzan University 2020 Asian Ethnology Series Event(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山下香・安枝英俊
2. 発表標題 趣味活動により形成される実践コミュニティの持続性と展開
3. 学会等名 2020年度第93回日本社会学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 依木悟
2. 発表標題 古くて新しい「日常」の課題の再発掘
3. 学会等名 現代民俗学会第50回研究会(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 俵木悟
2. 発表標題 生きられる伝統としての石見神楽
3. 学会等名 島根の日本遺産講座「神々や鬼たちが躍動する神話の世界：石見地域で伝承される神楽」（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 俵木悟
2. 発表標題 神楽の歴史と変遷
3. 学会等名 荒川ふるさと文化館企画展「江戸里神楽 松本源之助」関連記念講演会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 俵木悟
2. 発表標題 文化的自画像としての石見神楽「大蛇」
3. 学会等名 大阪大学大学院文学研究科「徴しの上を鳥が飛ぶII」：現代社会における芸能の所在（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 西村明
2. 発表標題 出身地域から「日本の宗教」を捉え直す - 島原半島調査から
3. 学会等名 日本宗教学会第79回学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 西村明
2. 発表標題 疫病で検出される信仰世界－近代日本のコレラ流行を中心に
3. 学会等名 駒澤大学 総合教育研究部・文化学部門主催公開講演会（共催：駒沢宗教学研究会）（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 西村明
2. 発表標題 死者と生者をつなぐアート 多様な慰霊を生み出す想像力と創造力
3. 学会等名 現代民俗学会第51回研究会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 西村明
2. 発表標題 近代日本の感染症と宗教
3. 学会等名 国際宗教研究所シンポジウム「新たな感染症の時代の宗教」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西村明
2. 発表標題 衛生と信仰のはざままで - 近代日本宗教史に学ぶ
3. 学会等名 神道国際学会第25回国際神道セミナー「神々と伝染病 II」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 米野みちよ
2. 発表標題 フィリピン北部先住民の音楽と文化
3. 学会等名 東京外国語大学オープンアカデミー「東南アジアの音楽と芸能」シリーズ（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 米野みちよ
2. 発表標題 フィリピンの社会と音楽入門
3. 学会等名 東京外国語大学オープンアカデミー 「東南アジアの音楽と芸能」シリーズ（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 米野みちよ
2. 発表標題 在日フィリピン人の音楽活動 『母語なき母語』とヴァナキュラーアート
3. 学会等名 東京大学東洋文化研究所離任研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 菅豊
2. 発表標題 当田野成為受災地 作為方法的共情
3. 学会等名 山東大学儒学高等院、北京師範大学人類学民俗学系主催国際シンポジウム『“有温度的田野” 学术工作坊第二期・中国礼俗傳統與当代鄉村振興論壇』（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 菅豊
2. 発表標題 新潟県の錦鯉産業の『強み』～さらなる発展に向けて～
3. 学会等名 内閣府、新潟県、小千谷市主催『クールジャパン推進会議in新潟』（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 菅豊
2. 発表標題 想知道爾轉発的錦鯉来自那里何？ 全球化、网络化时代文化变遷的模式
3. 学会等名 東南大学外国語学院主催シンポジウム『東大×東大（東京大学系列講座）之三』（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 菅豊
2. 発表標題 田野調査入門
3. 学会等名 東南大学外国語学院主催講演会『中日学术大珈対談 從“田野採風”到“有温度的田野”』（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yutaka Suga
2. 発表標題 The Materiality of Spontaneous Shrines: The Formation of Urban Folklore around Unexpected Deaths
3. 学会等名 10th International Forum on Urban Society（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 菅豊
2. 発表標題 民俗学学科中芸術論的転向 従民間芸術到支持人們“生”的芸術 (vernacular art), 即“生”的芸術 (arts as it is lived)
3. 学会等名 華東師範大学人文與社会科学研究院、社会発展学院主催『人文社会科学校級百場講座』(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 菅豊
2. 発表標題 民俗学のアート論的転回
3. 学会等名 現代民俗学会第48回研究会『アートの民俗学的転回、民俗学のアート論的転回』(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 菅豊
2. 発表標題 地方創生と『新しい野の学問』
3. 学会等名 日本学術会議地域研究委員会、地域学部会主催『第2期を迎えた地方創生と地域学のパースペクティブ』(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 米野みちよ
2. 発表標題 フィリピン北部の先住民の音楽と文化
3. 学会等名 東京外国語大学公開講座『東南アジアの芸能と音楽を知ろう』(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 米野みちよ
2. 発表標題 共生をめぐる音楽コミュニティのエージェンシー：在日フィリピン人のど自慢大会
3. 学会等名 日本音楽学会第59回定例研究会シンポジウム『音楽コミュニティとマイノリティ 多文化共生の実践と課題』（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Michiyo Yoneno-Reyes
2. 発表標題 Interrogating 'Vanaw' towards Indigenous Studies: Ethnic Category and Representation Issues Revisited
3. 学会等名 第24回フィリピン研究会全国フォーラム（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Michiyo Yoneno-Reyes
2. 発表標題 Interrogating "Doremi-nization": Theoretical Reflection on Modernization of Indigenous Music Heritage of the Philippines
3. 学会等名 The 11th International Convention of Asia Scholars（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 米野みちよ
2. 発表標題 フィリピンの音楽と社会入門
3. 学会等名 東京外国語大学公開講座『東南アジアの音楽と芸能を知ろう』（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 米野みちよ
2. 発表標題 みんなく映画会・みんなく映像民族誌シアター『フィリピン周辺地域の音楽』解説
3. 学会等名 みんなく映画会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 塚本鷹充
2. 発表標題 唐代芸術的改造与延續
3. 学会等名 "与天久長：周秦漢唐文化与芸術"學術研討会（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 塚本鷹充
2. 発表標題 江戸時代が見た中国絵画 多様な中国絵画史の共生
3. 学会等名 水曜講演会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Makito Kawada
2. 発表標題 Considering Magical Ability from the Perspective of Individuality and Personality
3. 学会等名 International Union of Anthropological and Ethnological Sciences (IUAES) (國際学会)
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 Hideyo Konagaya
2. 発表標題 The Discourse of Minzoku Geino and the Modern Nation-State in the Early Twentieth Century
3. 学会等名 Asian Studies Conference Japan (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hideyo Konagaya
2. 発表標題 The Conceptualization of Folkloristic Performance, Modernity, and the Nation-state in the Early Twentieth Century Japan
3. 学会等名 Association for Asian Studies in Asia 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加藤幸治
2. 発表標題 文化における「より良い復興」へ
3. 学会等名 石巻の文化施設について考えたり語ったりする会、トークイベント『ミュージアムを地域にひらく』（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加藤幸治
2. 発表標題 ミュージアムを地域にひらく 復興キュレーションの実践から
3. 学会等名 科研「地方大学における総合的な地域資料の展示公開モデルの構築（代表者：五十嵐太郎・東北大学工学研究科）」研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加藤幸治
2. 発表標題 郷土玩具からみえる世界
3. 学会等名 特別展「子どもの世界」関連イベント特別講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加藤幸治
2. 発表標題 くらしの中の動物観 牡鹿半島における生活の変化と関係性
3. 学会等名 成城大学民俗学研究所共同研究「地域社会の関係性の変容に関する実証研究」2019年度第3回研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加藤幸治
2. 発表標題 Catastrophic Disaster Causing Separation of Culture and Loss of History : Museum Activities by University Students for "Build Back Better" of Local Culture
3. 学会等名 フィリピン大学、南山大学人類学研究所、国際公開シンポジウム『Wisdom for Living with Natural Disasters Initiatives of Local Residents in Response to Changes in their Society 』（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加藤幸治
2. 発表標題 メモリーオブジェクトと無用の造形 捕鯨の町・鮎川におけるクジラの珍物をめぐって
3. 学会等名 日本民俗学会第71回年会、グループ発表『よみがえらせよう！「野の芸術」論！ 民俗学におけるアート研究の視座の構築（代表者：菅豊・東京大学）』
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加藤幸治
2. 発表標題 被災地の現状とこれから 宮城県からの報告
3. 学会等名 シンポジウム『文化財を守り伝える2 東日本大震災から8年の今、これから』（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加藤幸治
2. 発表標題 牡鹿半島の暮らしと自然・魅力再発見 徹底解説 牡鹿半島ビジターセンターの常設展示
3. 学会等名 牡鹿半島ビジターセンター（環境省）『牡鹿民俗誌セミナー』（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 依木悟
2. 発表標題 石見神楽の蛇胴製作に見る「野の芸術」
3. 学会等名 科研「「野の芸術」論：ヴァナキュラー概念を用いた民俗学的アート研究の視座の構築（代表者：菅豊・東京大学）」第1回研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 依木悟
2. 発表標題 神奈川県鹿島踊りについて
3. 学会等名 鹿島踊り調査中間報告会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 依木悟
2. 発表標題 民俗学とデジタル・ヒューマニティーズ
3. 学会等名 五大学情報センター長会議
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 依木悟
2. 発表標題 無形民俗文化財の保護と映像記録作成
3. 学会等名 君津地方社会教育研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 依木悟
2. 発表標題 Efforts for Safeguarding Folk Performing Arts in Japan: Focusing on the Communities Concerned and the Problems Facing Them
3. 学会等名 国際ワークショップ『The Practicalities and Ethics of Dealing with Disaster Remains and Cultural Heritage』（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 宮内泰介
2. 発表標題 被災地住民にとってのコミュニティ再編とその重層性
3. 学会等名 第59回環境社会学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮内泰介
2. 発表標題 ライフヒストリーから見るイワシ産業の地域史：長崎県雲仙市南串山町の事例から
3. 学会等名 地域漁業学会第61回大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計60件

1. 著者名 福田アジオ、菅豊、塚原伸治	4. 発行年 2021年
2. 出版社 山東画報出版社	5. 総ページ数 206
3. 書名 『超越20世紀民俗学 対話福田亜細男』	

1. 著者名 菅豊	4. 発行年 2021年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 285
3. 書名 『鷹將軍と鶴の味噌汁 江戸の鳥の美食学』	

1. 著者名 加藤幸治	4. 発行年 2021年
2. 出版社 武蔵野美術大学出版局	5. 総ページ数 256
3. 書名 『民俗学 ヴァナキュラー編』	

1. 著者名 俵木悟	4. 発行年 2021年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 336 ( 193-238 )
3. 書名 『変貌する祭礼と担いのしくみ』（牧野修也編，「大里七夕踊と青年団のかかわりの一〇〇年」を分担執筆）	

1. 著者名 俵木悟	4. 発行年 2022年
2. 出版社 神奈川県教育委員会	5. 総ページ数 278 ( 8-19 )
3. 書名 『かながわの鹿島踊〔吉浜の鹿島踊〕』（神奈川県教育委員会生涯学習部文化遺産課編，「総論」を分担執筆）	

1. 著者名 俵木悟	4. 発行年 2022年
2. 出版社 神奈川県教育委員会	5. 総ページ数 278 ( 204-209 )
3. 書名 『かながわの鹿島踊〔吉浜の鹿島踊〕』（神奈川県教育委員会生涯学習部文化遺産課編，「柳田國男と鹿島踊」を分担執筆）	

1. 著者名 植田憲司・衣川太一・佐藤洋一編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 京都府京都文化博物館	5. 総ページ数 118
3. 書名 『戦後京都の「色」はアメリカにあった! : カラー写真が描く《オキュパイド・ジャパン》とその後』	

1. 著者名 西村明	4. 発行年 2021年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 250 ( 83-97 )
3. 書名 『文化資源学 文化の見つけかたと育てかた』（東京大学文化資源学研究室編、第5章「文化資源としての葬儀 第三者の関与による変容と継承」を分担執筆）	

1. 著者名 塚本鷹充	4. 発行年 2021年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 276 ( 82-99 )
3. 書名 『ハート形のイメージ世界 見えるものと見えないもの』（蜷川順子編、「皇帝の身体と聖心イメージ：佛教と中国の身体観の変容」を分担執筆）	

1. 著者名 塚本鷹充	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 520 ( 428 452 )
3. 書名 『コレクションとアーカイヴ 東アジア美術研究の可能性』（板倉聖哲・塚本鷹充編、「中国近代と仏教絵画 金石から人物表現、アジア認識へ」を分担執筆）	

1. 著者名 米野みちよ	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 264 ( 57-79 )
3. 書名 『外国人看護師 EPAによる受け入れは何をもたらしたのか』（平野裕子・米野みちよ編著、「EPAプログラムと日本語教育の諸相」を分担執筆）	

1. 著者名 平野裕子・米野みちよ・比留間洋一・スシアナ ヌグラハ	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 264 ( 217-237 )
3. 書名 『外国人看護師 EPAによる受け入れは何をもたらしたのか』（平野裕子・米野みちよ編著、「帰国者に見るEPA制度の課題－帰国理由・滞日満足度・帰国後の現状の分析を中心に」を分担共同執筆）	

1. 著者名 平野裕子・米野みちよ	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 264 ( 239-250 )
3. 書名 『外国人看護師 EPAによる受け入れは何をもたらしたのか』（平野裕子・米野みちよ編著、「おわりにかえてーコロナ禍と外国人看護師」を分担共同執筆）	

1. 著者名 Michiyo Yoneno-Reyes	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター	5. 総ページ数 233 ( xxvii-x1 )
3. 書名 『部族の記憶を記録する－フィリピン北部ヴァナウの民話』（米野みちよ・スコット マグカチ サボイ・ローレンス リード共編 『部族の記憶を記録するDocumenting Indigenous Tribal Memory: Folktales of the Vanaws, Northern Philippines) ("The History of Balbalasang"を分担執筆）	

1. 著者名 菅豊	4. 発行年 2020年
2. 出版社 中西書局	5. 総ページ数 167
3. 書名 『河川の帰属 人與環境の民俗学』	



1. 著者名 菅豊	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 440 (113-152)
3. 書名 『災禍をめぐる記憶と語り』（標葉隆馬編著, 「災禍のパブリック・ヒストリーの災禍」を分担執筆）	

1. 著者名 宮内泰介・上田昌文	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 275 (1-140, 205-262)
3. 書名 『実践 自分で調べる技術』	

1. 著者名 加藤幸治	4. 発行年 2021年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 374 (53-66)
3. 書名 『継承される地域文化 災害復興から社会創発へ』（日高真吾編著, 「文化財レスキュー」から「復興キュレーション」へ」を分担執筆）	

1. 著者名 加藤幸治	4. 発行年 2021年
2. 出版社 国立民族学博物館	5. 総ページ数 175 (53-66)
3. 書名 『復興を支える地域の文化 3.11から10年』（日高真吾編著, 「牡鹿半島の地域文化 「復興キュレーション」でえがく地域の姿」, 「たがやせ地域文化！ 小学生とえがく地域の姿」を分担執筆）	

1. 著者名 加藤幸治	4. 発行年 2021年
2. 出版社 社会評論社	5. 総ページ数 302
3. 書名 『津波とクジラとペンギンと 東日本大震災10年、牡鹿半島・鮎川の地域文化』	

1. 著者名 川田牧人	4. 発行年 2020年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 470 (7-43)
3. 書名 『現代世界の呪術 文化人類学的探究』（川田牧人・白川千尋・飯田卓編、序論「現代世界において呪術を問うこと」を分担執筆）	

1. 著者名 川田牧人	4. 発行年 2021年
2. 出版社 成城大学グローバル研究センター	5. 総ページ数 150 (31-58)
3. 書名 『「環境資源」に見られるグローバル現象の動態』（岩田一正編、「島事をプロデュースする 音楽と余興による島おこし」を分担執筆）	

1. 著者名 山下香	4. 発行年 2020年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 342 (24-45)
3. 書名 『アート・ライフ社会学 エンパワーするアートベース・リサーチ』（岡原正幸編著、「第2章 個人の趣味が生み出すエンパワーメント 高齢の婦人が制作する手芸作品「おかんアート」の事例から」を分担執筆）	

1. 著者名 俵木悟	4. 発行年 2020年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 229 (213-223)
3. 書名 『講座日本民俗学1：方法と課題』（小川直之・新谷尚紀編，「地域活性化と民俗学」を分担執筆）	

1. 著者名 俵木悟	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 267 (125-142)
3. 書名 『職場・学校で活かす現場グラフィー：ダイバーシティ時代の可能性』（清水展・小國和子編，「思いをつなぎ、人をつなげる文化遺産：地域遺産の可能性」を分担執筆）	

1. 著者名 俵木悟	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 448 (243-268)
3. 書名 『災禍をめぐる「記憶」と「語り」』（標葉隆馬編，「津波で失われた浜の古絵図から紡ぎ出された記憶」を分担執筆）	

1. 著者名 俵木悟	4. 発行年 2021年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 272 (236-239)
3. 書名 『民俗学の思考法：いま・ここ の日常と文化を捉える』（岩本通弥・門田岳久・及川祥平・田村和彦・川松あかり編，「フェス・イベントと祭り・行事」「文化政策」を分担執筆）	

1. 著者名 俵木悟	4. 発行年 2021年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 800 ( 196 - 200 )
3. 書名 『山・鉾・屋台の祭り研究事典』（植木行宣監修，福原敏男・西岡陽子・橋本章・村上忠喜編，「ユネスコ無形文化遺産」を分担執筆）	

1. 著者名 俵木悟	4. 発行年 2021年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 800 ( 372 - 376 )
3. 書名 『山・鉾・屋台の祭り研究事典』（植木行宣監修，福原敏男・西岡陽子・橋本章・村上忠喜編，「白間津のオオマチ行事」を分担執筆）	

1. 著者名 塚原伸治	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 268 ( 127-140 )
3. 書名 『モノとメディアの人類学』（藤野陽平・奈良雅史・近藤祉秋編，「祭礼とメディアの民俗学 「佐原の大祭」における新たなメディアの活用をめぐって」を分担執筆）	

1. 著者名 佐藤 洋一	4. 発行年 2020年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 177 ( 15-41 )
3. 書名 『占領期の都市空間を考える』（佐藤洋一「占領期写真におけるさまざまなまなざし」を分担執筆）	

1. 著者名 西村明	4. 発行年 2020年
2. 出版社 森話社	5. 総ページ数 336 (202-217)
3. 書名 『療法としての歴史 知 - いまを診る』(方法論懇話会編、「国家が専有する慰霊」を分担執筆)	

1. 著者名 西村明	4. 発行年 2020年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 257 (236-257)
3. 書名 『日本宗教史 5 日本宗教の信仰世界』(伊藤聡・佐藤文子編、「横死をめぐる思想と実践 - 人神信仰と戦争死者」を分担執筆)	

1. 著者名 西村明	4. 発行年 2021年
2. 出版社 春秋社	5. 総ページ数 296 (3-34)
3. 書名 『近代日本宗教史 5 敗戦から高度成長へ』(島園進・末木文美土・大谷栄一・西村明編、第一章「総論体制の転換とコスモロジーの変容」を分担執筆)	

1. 著者名 西村明	4. 発行年 2021年
2. 出版社 春秋社	5. 総ページ数 296 (175-208)
3. 書名 『近代日本宗教史 5 敗戦から高度成長へ』(島園進・末木文美土・大谷栄一・西村明編、第六章「慰霊と平和」を分担執筆)	

1. 著者名 西村明	4. 発行年 2021年
2. 出版社 法蔵館	5. 総ページ数 420 ( 259-284 )
3. 書名 『宗教性的人类学 - 近代の果てに、人は何を願うのか』（長谷千代子・別所裕介・川口幸大・藤本透子編、第9章「戦後慰霊を再考する：政教分離フィルター過後の残留宗教性」を分担執筆）	

1. 著者名 塚本磨充	4. 発行年 2021年
2. 出版社 中央公論美術出版	5. 総ページ数 700 ( 3 - 64 )
3. 書名 『アジア佛教美術論集 東アジア 北宋・遼・西夏』中央公論美術出版（板倉聖哲・塚本磨充編、「総論 北宋社会と仏教の美術 皇帝、士大夫と地域文化の躍動」を分担執筆）	

1. 著者名 菅豊	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 479 ( ( 1 ) - ( 12 ) )
3. 書名 『パブリック・ヒストリー入門 開かれた歴史学への挑戦』（菅豊・北條勝貴編著、「序文 パブリック・ヒストリー 現代社会において歴史学が向かうひとつの方向性」を分担執筆）	

1. 著者名 菅豊	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 479 ( 3-68 )
3. 書名 『パブリック・ヒストリー入門 開かれた歴史学への挑戦』（菅豊・北條勝貴編著、「パブリック・ヒストリーとはなにか？」を分担執筆）	

1. 著者名 米野みちよ	4. 発行年 2019年
2. 出版社 国立民族学博物館	5. 総ページ数 なし
3. 書名 『フィリピン周辺地域の音楽』（ウソパイカダー・米野みちよ・寺田吉孝監修,DVDを共同監修）	

1. 著者名 Michiyo Yoneno-Reyes	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Ateneo de Naga University Press	5. 総ページ数 印刷中
3. 書名 Colonialism and Modernity: Re-mapping Philippine Histories. (Oscar Campomanes, et al. eds., "Highland-Lowland Dichotomy in Philippine Studies: Colonial Roots and Counter Narratives." を分 担執筆)	

1. 著者名 塚本磨充	4. 発行年 2019年
2. 出版社 武蔵野美術大学美術館・図書館	5. 総ページ数 608 ( 169-191 )
3. 書名 『帝国美術学校の誕生 金原省吾とその同志たち』（武蔵野美術大学美術館・図書館編, 「金原省吾と中国美術史学 美術批評と美術史学のあいだで 」を分担執筆）	

1. 著者名 川田牧人	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 479 ( 326-330 )
3. 書名 『パブリックヒストリー入門 開かれた歴史学への挑戦 』（菅豊・北條勝貴編著, 「「歴史」する聖地空間」を分担執筆）	

1. 著者名 川田牧人	4. 発行年 2020年
2. 出版社 NHK出版（放送大学教育振興会）	5. 総ページ数 291（145-159）
3. 書名 『「人新世」時代の文化人類学』（大村敬一・湖中真哉編，「9 世俗と宗教」を分担執筆）	

1. 著者名 川田牧人	4. 発行年 2020年
2. 出版社 NHK出版（放送大学教育振興会）	5. 総ページ数 291（160-175）
3. 書名 『「人新世」時代の文化人類学』（大村敬一・湖中真哉編，「10 現実と虚構のはざまのメディア／知識」を分担執筆）	

1. 著者名 川田牧人	4. 発行年 2020年
2. 出版社 成城大学民俗学研究所	5. 総ページ数 120（1-3）
3. 書名 『ドイツ民俗学との対話（国際セミナー報告書）』（及川祥平と共編著、全体の編集、ならびに「はじめに」を分担執筆）	

1. 著者名 川田牧人	4. 発行年 2019年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 794（248-249）
3. 書名 『東南アジア文化事典』（信田敏宏ほか編，「呪術」を分担執筆）	



1. 著者名 川田牧人	4. 発行年 2019年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 794 ( 616-617 )
3. 書名 『東南アジア文化事典』( 信田敏宏ほか編, 「バロック様式教会群」を分担執筆)	

1. 著者名 塚原伸治	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 479 ( 413-417 )
3. 書名 『パブリック・ヒストリー入門 開かれた歴史学への挑戦』( 菅豊・北條勝貴編著, 「歴史を刻む音楽ある祭り囃子の「成長」」を分担執筆)	

1. 著者名 加藤幸治	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 479 ( 246-266 )
3. 書名 『パブリック・ヒストリー入門 開かれた歴史学への挑戦』( 菅豊・北條勝貴編著, 「更地と工事現場からの文化創造と歴史実践 津波被災地における復興キュレーション」を分担執筆)	

1. 著者名 加藤幸治	4. 発行年 2019年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 240 ( 48-72 )
3. 書名 『日本の食文化2 米と餅』( 関沢まゆみ編, 「粥とかて飯: 調理の知恵と工夫」を分担執筆)	

1. 著者名 加藤幸治	4. 発行年 2020年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 251 ( 195-200 )
3. 書名 『大学で学ぶ東北の歴史』（東北学院大学文学部歴史学科編, 「大津波災害・農村恐慌からの復興」を分担執筆）	

1. 著者名 加藤幸治	4. 発行年 2020年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 251 ( 211-217 )
3. 書名 『大学で学ぶ東北の歴史』（東北学院大学文学部歴史学科編, 「東北の観光開発と生活文化」を分担執筆）	

1. 著者名 加藤幸治	4. 発行年 2020年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 251 ( 230-236 )
3. 書名 『大学で学ぶ東北の歴史』（東北学院大学文学部歴史学科編, 「離島にみる地域振興と観光化」を分担執筆）	

1. 著者名 加藤幸治	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 364 ( 1-364 )
3. 書名 『渋沢敬三とアチック・ミュージアム 知の共鳴が創り上げた人文学の理想郷 』	

1. 著者名 俵木悟	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 479 ( 157-175 )
3. 書名 『パブリック・ヒストリー入門 開かれた歴史学への挑戦』(菅豊・北條勝貴編著,「歴史と芸:神楽の過去を発掘する/演じるという歴史実践」を分担執筆)	

1. 著者名 俵木悟	4. 発行年 2020年
2. 出版社 成城大学民俗学研究所	5. 総ページ数 120 ( 87-96 )
3. 書名 『ドイツ民俗学との対話(国際セミナー報告書)』(川田牧人・及川祥平編,「特別寄稿:歴史と日常をつなぐ「ハビトゥス」の可能性」を分担執筆)	

1. 著者名 宮内泰介	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 479 ( 224-245 )
3. 書名 『パブリック・ヒストリー入門 - 開かれた歴史学への挑戦』(菅豊・北條勝貴編著,「『八重子の日記』をめぐる歴史実践」を分担執筆)	

1. 著者名 西村明	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 479 ( 176-193 )
3. 書名 『パブリック・ヒストリー入門 開かれた歴史学への挑戦』(菅豊・北條勝貴編著,「いまに生きる、いまを生かす歴史的空間における歴史実践 「0ターン郷土誌家」を目指して」を分担執筆)	

1. 著者名 西村明	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 404 (175-205)
3. 書名 『宗教と社会の戦後史』(堀江宗正編,「忠魂碑の戦後 宗教学者の違憲訴訟への関与から考える」を分担執筆)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

第1回研究会 <a href="http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=WedJul131537152019">http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=WedJul131537152019</a> The 10th International Forum on Urban Society <a href="http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=WedNov061837562019">http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=WedNov061837562019</a> 第2回研究会 <a href="http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=WedNov201730202019">http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=WedNov201730202019</a> 第3回研究会 <a href="http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=FriDec201126422019">http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=FriDec201126422019</a> 第4回研究会 <a href="http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=ThuJan160754072020">http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=ThuJan160754072020</a> 第5回研究会 <a href="https://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=WedJul011545502020">https://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=WedJul011545502020</a> 第6回研究会 <a href="https://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=WedNov181541572020">https://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=WedNov181541572020</a> 第7回研究会 <a href="https://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=WedDec091942582020">https://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=WedDec091942582020</a> 第8回研究会 <a href="https://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=WedAug181525462021">https://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=WedAug181525462021</a> 第9回研究会 <a href="https://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=ThuDec161323522021">https://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=ThuDec161323522021</a> 第10回研究会 <a href="https://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=ThuDec231013462021">https://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=ThuDec231013462021</a>
---

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	西村 明  (NISHIMURA Akira)  (00381145)	東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・准教授    (12601)	
研究分担者	塚本 磨充  (TSUKAMOTO Maromitsu)  (00416265)	東京大学・東洋文化研究所・准教授    (12601)	
研究分担者	佐藤 洋一  (SATO Yoichi)  (10277832)	早稲田大学・社会科学総合学院・教授    (32689)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	米野 みちよ  (YONENO Michiyo)  (20798144)	静岡県立大学・国際関係学部・教授    (23803)	
研究分担者	川田 牧人  (KAWATA Makito)  (30260110)	成城大学・文芸学部・教授    (32630)	
研究分担者	俵木 悟  (HYOKI Satoru)  (30356274)	成城大学・文芸学部・教授    (32630)	
研究分担者	加藤 幸治  (KATO Koji)  (30551775)	武蔵野美術大学・造形学部・教授    (32681)	
研究分担者	塚原 伸治  (TSUKAHARA Shinji)  (30735569)	東京大学・大学院総合文化研究科・准教授    (12601)	
研究分担者	宮内 泰介  (MIYAUCHI Taisuke)  (50222328)	北海道大学・文学研究院・教授    (10101)	
研究分担者	小長谷 英代  (KONAGAYA Hideyo)  (60300472)	早稲田大学・社会科学総合学術院・教授    (32689)	
研究分担者	山下 香  (YAMASHITA Kaori)  (80756635)	甲南女子大学・文学部・准教授    (34507)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	陸 薇薇  (LU Weiwei)	中国東南大学・外国語学院・副教授	
研究協力者	榎野 展正  (KUSHINO Nobumasa)	アーツカウンシルしずおか・アーツカウンシル課・チーフプログラム・ディレクター	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関